

超高齢透析患者に対する積層型ダイライザーの臨床評価

医) 衆和会 長崎腎病院 CET 課、医) 衆和会 長崎腎病院 医師部
○吉野秀章 矢野利幸 高木伴幸 宮崎健一 李嘉明 原田孝司 船越哲

【目的】

MIA 症候群改善と緩徐な溶質除去が特徴的な特定積層型ダイライザーH12 (GAMBUR0) は近年その使用が見直されつつある。今回われわれは、特に低栄養改善効果と緩徐な溶質除去に着目し超高齢者に対する評価を行った。

【対象】

超高齢 (85 歳以上) で低栄養状態を伴う透析患者女性 6 名、平均年齢 87.8 ± 6.6 歳、DM 3 名、非 DM 3 名

【方法】

生化学検査データを基に積層型ダイライザー使用前後半年間の栄養状態ならびに透析効率の評価を行った。また透析中の平均血圧推移と処置回数についても評価した。

【結果】

栄養状態評価の指標とした GNRI・血清 Alb 値に有意差は認められなかった。nPCR は変更前平均 0.68 から変更後 0.9 となり有意差は認められないものの緩徐な改善傾向が認められた。

平均血圧推移に有意差は認められなかったが、血圧低下による処置回数は変更前 3.7 ± 1.4 回変更後 2.6 ± 1.4 回と減少傾向であった。

【考察】

超高齢者はアルブミン合成能低下の影響により栄養状態の改善には至らなかった。しかし透析中の処置回数が減少傾向であったのは、緩徐な溶質除去によって一過性の血圧低下が軽減したと考えられ、超高齢者に適したダイライザーである可能性が示唆された。